

## 令和7年度第1回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録

1 日時 令和7年11月5日(水) 午前10時～午前11時50分

2 場所 市役所2階205・206会議室

3 出席委員

須田委員、難波委員、塩野委員、田邊委員、熊谷委員

4 議事

(1) 委嘱状交付

(2) 報告事項

(1) デジタル田園都市国家構想交付金活用報告について

ア AIを利用した電話応答自動化事業

イマイナンバーカードを利用したデマンド相乗りタクシー運賃補助システム

(3) 協議事項

第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和5年3月改訂版)の推進について

(4) その他

次回の開催について

### (配布資料)

資料1 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会設置要綱

資料2 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会委員名簿

資料3 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会の会議の公開等に関する取扱要領

資料4-1 デジタル田園都市国家構想交付金活用報告(AIを利用した電話応答自動化事業)

資料4-2 デジタル田園都市国家構想交付金活用報告(マイナンバーカードを利用したデマンド相乗りタクシー運賃補助システム)

資料5 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標の状況

資料6 第7次青梅市総合長期計画実施計画(令和7(2025)年度)【抜粋】

発言者	会議の概要
	(開会)
事務局	(1)委嘱状交付 市長より難波委員に委嘱状を交付および市長あいさつ
委員	(2)報告事項 (1) デジタル田園都市国家構想交付金活用報告について ア AIを利用した電話応答自動化事業 イマイナンバーカードを利活用したデマンド相乗りタクシー運賃補助システム <資料4-1 および 2 を用いて説明>
事務局	AIを利用した電話応答自動化事業については今後拡張していく予定か。
会長	2025年度で13件だが、デジタル田園都市国家構想交付金実績報告では2026年に18件に拡充予定と報告している。
事務局	例えばAIをどのように活用した機能なのか。
委員	例えば収納関係だと、納期限を過ぎても納付の確認が取れない方に対して、納付されたかどうか、納付書の再発行が必要かどうかなどを認識して、AIが判別するといった活用をしている。
事務局	電話応答の電話番号は、市役所の代表番号ではないのか？
委員	本事業専用の番号を新たに設定して、対象者に送る通知にその電話番号を記載しているほか、市広報や市ホームページにおいて公表している。
事務局	他団体の実績などは？
	近隣だと昭島市でWi-Fiの拡充事業やゴミ収集申し込みの電子申請などの事例がある。 全国的に多いのは例えば窓口で申請書を書かない。運転免許証の情報をデータ化し、窓口で手続きが進んでいくというようなものを導入していたり、福祉の関係で介護認定申請も書類が多くいたため、デジタル化する取り組みが多く見受けられる。

委員	資料 4-1 の交付金の概要に「地域課題の解決や魅力向上に資する」とあるが、青梅市で言えば具体的にどういうことを指しているか。
事務局	マイナンバーカードを利活用したデマンド相乗りタクシーなども、青梅市の地形上、駅やバス停への移動が難しい場合もあり、住みやすい青梅市を目指している。それも魅力向上の一つと考えている。
委員	住みやすい環境づくりが魅力向上につながる。デジタルサービス導入により手続き等の効率化を図ることも良いと思うが、システムの実装・実現に向け、もう少し市民にビジョンが広がっていくと良い。
委員	デマンド相乗りタクシーは二人で乗ったら無料になるのか？
事務局	申請すると月 3,000 円が登録される。12 か月で 36,000 円。一回乗ると半額が助成される。二人で乗れば、半額ずつ出し合って無料になる。月 3,000 円分のため、毎日乗れるわけではないが、ちょっとした通院や買い物に活用いただけたらと考えている。
委員	知らない人と相乗りすると便利な気がするがそといった案内があるのか？
事務局	そといった想定ではなかったが、例えばご夫婦や親子で、ご友人であったりとか、近所の方とかですね、それぞれマイナンバーカードを持って登録してると 2,500 円ぐらいの距離であれば、両方無料となるようなサービスとなる。75 歳以上、65 歳以上で運転免許証を持っていない方、妊産婦および障害のある方などが対象。
会長	市民のマイナンバー保有率は？
事務局	令和 6 年度で 78.1% となっている。
委員	「市の職員が効率よく利用する」とは？
事務局	補助制度は本来、1 人 1 人を対象とした補助を重ねていくとそれだけその手続きが煩雑になるが、市民の方々に 1 回登録をしていただくと、タクシーの中で、その機械にそれが蓄積されていく。この制度を活用することにより市の職員側の業務改善につながるという意味であり、市側もタクシーが利用できるわけではない。

委員	タクシーに表示等あるのか
事務局	現在は、青梅と福生の営業所にある京王自動車でのみ実装している。
副市長	10月15日からスタートして、現在青梅営業所と福生営業所のみ実装しているが、今後増やしていくことを検討している。福生で乗車しても到着場所が青梅市であればサービスの対象となる。
(7)協議事項	
事務局	第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和5年3月改訂版)の推進について <資料5および資料6を用いて説明>
委員	移住者の関係で、青梅市はどこに移住者がふえているか。
事務局	少し前のデータだが、移住されている地域は、圧倒的に多摩地域から多い。続いて、埼玉県が多い。市内では東側の方で、例えば開発や、マンション等、居住環境が整っている部分もある。西部北部へ行くと、受け入れとして空き家等はあるが、マンションなど受け入れが少ない。東部地域への移住が多い。あと近年の比較を見たときに、自然増減としてはどうしても少子高齢化で高齢者の方が多い中、生まれてくる出生者数が少ない。 転出される方よりも、転入されてくる方がここを1年多く、社会増減で言うと増となる。ただ、西多摩地域での奪い合いはせずに、西多摩全体として都内から呼び込めばと移住・定住所感課は考えている。
委員	創業支援としては、例年、創業した後は、現状どうなっている。残って継続していくほしいという気持ちは強い。もし辞めてしまったり、他地域に移ってしまう方の傾向を把握することができれば課題解決につながるのではないか。
事務局	創業応援補助金を出した方に対して、翌年度から3ヶ年までは実績の状況について御報告をいただいているが、それ以降の追跡についてはできていない。
委員	マイナンバー利用率について、なにか重点的に取組んでいるのか。
事務局	資料については、住民票や課税証明書の交付での利用率であり、何かを重点的な取り組みを行ってはいない。他市だとあえて10円でコンビニ交付し市民の目線を向ける

	取組をされているところもある。青梅市も窓口が混んでおり、コンビニ交付では100円安く証明書入手できるなど、メリットをだして混雑緩和に努めている。
委員	高齢者は、操作が大変だと思われるが、窓口の混雑緩和にさせるためにマイナンバーカードを保有していただく等取り組んでいく必要がある。
委員	SNSでマイナンバーカードで利用できるサービスについて紹介するといったコンテンツがあるとわかりやすくいいのでは。
事務局	市長より常々、動画等を作成し、外に向けての情報発信をするよう指示を受けている。市民サービスについて、公式XやYOUTUBEで広めていくことなどが重要。SNSはOmeblueは観光行政、MYHOMEMYOMEは移住・定住のコンテンツを増やしていくとして、棲み分けで活用しているつもりではあるが、そこがあまり浸透していない。そこについては改善ていきたい。
委員	もったいないと感じる。Omeblueはフォロワー数10,000以上でMYHOMEMYOMEは1,000程度、シェア動画をあげたり、タグ付けなどで連携して閲覧数を増やすなどできるのではないか。
事務局	ご意見を参考にさせていただく。
委員	創業支援について。起業を目指すという学生が増えている中で、大学に対しても広報されているのか。
事務局	現状ではアプローチはできていない。包括連携協定を結んでいる大学機関が四つある。今いろんな事業を連携して実施していくとしている。今後、起業したい学生に対してもアプローチできるようにしたい。
副市長	青梅市は金融機関や保険会社とも包括連携協定を締結している中、このまち・ひと・しごと創生総合懇談会も各業界をまたいだつながりとなっているように、まずは連携している団体同士、例えば金融機関と大学と行政が交流の機会を持てたらと考える。参考にさせていただきたい。
委員	資料5の「自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と感じた児童生徒の割合についてだが、具体的に何に対する自分の考えをどう深められたのか。どういったアンケートなのか。青梅市は学校がたくさんあり、それぞれ地域特性があるので各学校でそれぞれ違うことをイメージして回答しているのではないか。
教育長	学力テストと同時に行われるアンケートであり、全国の子供たちが答えてます。これは学力に関するアンケートに対して、いろいろ勉強したというようなことで、自分の考え

	<p>を深めたり広げたりすることができたという項目に回答している。全国的には 69% 程度であり、青梅市の数字は良い方である。</p> <p>また、全国アンケートに関わらず各校でも定期的にアンケートを取っており、「自分には良いところがある」というような回答も 8 割を超えるような状況である。</p> <p>26 小中学校全てで青梅学を教育課程に組み込んでおり、それぞれ自分の住む地域を良く知ろうとしている。</p> <p>保護者からのアンケートでも「自分の子どもが頑張ってる」という回答は、こどもたちと同様の数値を頂戴している。学力には課題はあるが、自己肯定感は青梅のこどもは非常に高いものがあるというような現状である。</p>
委員	学校再編についてのアンケートは回答数が少ないと感じるがいかがか。
教育長	こどもたちには学校内で回答いただいたので数は多かった。保護者を含めてもある程度のデータとして活用できる程度には回答を得たと認識している。
会長	スマホに依存している子どもが増えているが、青梅市こどものスマホ利用に関する取り組みとは？
教育長	スマホについては、原則学校に持ち込み禁止。特別な場合は、学校にいる間は職員室で預かる。各学校で使用時間についてルールを決めているところもある。姿勢や視力のこともあるのでスマホについては敏感に対応している。
委員	大学生にとって生成 AI は生活の一部だが、例えば ChatGPT のプロンプトが明確でないとうまく活用できない。質問する側の知識や経験値も重要になってくる。「子ども体験塾事業」で、子どもの頃に青梅市の環境を生かした実体験を伴う経験ができるのは、とても貴重だと感じる。
委員	市役所の業務を集約・連携したり、この地域に住めばこういったこどもたちはこんな体験もできるといったことがわかりやすくなるとよい。単発の情報は知っている場合はあると思うが、点と点が繋がるような周知ができるとよいのではと考える。そうすれば子育て世代の方が市に入ってきたくなるきっかけにもなるのでは。
市長	まずは発信する情報量を増やしていきたい。青梅市も色々なことをやっているが知られていない。何をやっているかをわかりやすく伝えていくことが重要。
委員	広報するには素材となるデータが少ないと難しいと思う。初夏に、連続青梅小説「群青文学」のポスターをみて、食べたいな、とても魅力的に青梅の季節のスイーツの写真を使ってタイムリーに広報されているなと思ったが、秋になんてまだ夏のままなので残念。リアルタイムでの生活に関する情報発信も重要だが、シティプロモーションにお

	いては、情報をタイミングよく効果的に発信するためのデータを蓄積しておくことが大事だと思う。
委員	50～60代の方で移住・定住で探している人にあうことがある。西側には土地がありそうだが、空いているのかよくわからない。移住・定住担当者に繋げればいいと思うが、明確な問合せ場所がもっとオープンになればいいと思う。コンシェルジュもいることなどもっと知られて活用されればいいのでは。
事務局	移住定住に関して積極的に周知していきたい。
委員	景観まちづくり事業について。 データセンターが来るコトに対して、青梅市にとってのメリットがあれば伺いたい。
事務局	青梅インター北側は物流拠点として整備していく。一部データセンターを入れられるかは調整中。データセンターが設置されることによる青梅市としてのメリットは固定資産税と償却資産税の税収面、一方で雇用についてはほぼ見込めない。莫大な税金は入るが、巨大な建物が建つので、景観や日照の問題が他団体としては出ているところもある。大量の水・電気を使う。また、青梅市が設置するわけではなく民間資力で賄われている。 データセンターとしては物流と違うので渋滞はない。雇用面で言うと物流の方が多く雇用されることになる。 環境面で言えば排気ガスの問題か水・電気を使うというのは一長一短。
委員	景観づくりに関連して。青梅駅前マンションについて。昭和レトロの感じだった。どういった街づくりにしていくのか。周囲の人も気にしている。
事務局	建物の老朽化し、国の交付金を受けて、中心市街地再開発事業として、古い建物見直して新たな居住空間として成立をさせる。それが今、青梅駅ロータリーの西側のマンションになる。そのマンションの2階は住む方の利便性の向上として、パブリックな空間として整備する予定。東側については、スーパーやビジネスホテルがいいという意見もあるが、それも民間資力になってくると考える。ただ、各個店で地域の方が買い物できるように整備していく必要もある。
委員	若者の居場所空間がない、勉強する場所がないとの意見がある。
事務局	市役所の二階のスペースの開放も検討している。これは青梅総合高校の生徒の意見を参考にしている。
委員	海老名市の図書館は行列ができる。スタバ等がついていると若者がくる。誘致できるかどうかは別として。
委員	スタバでなくとも地元の人が運営するにかがきたりするといいのでは。単純な図書館となってしまうと行きにくいかもしれない。
委員	個人が自由に使い方を考えられるような居心地の良い場所、市民のサードプレイスになると良いのではないか。

会長	まったく別の話だが、ドローンについて檜原村と奥多摩町に行って、東庄町という千葉県のまちで、廃校の跡地にドローンパークというのを作っている。教習所や物資輸送の検証したりしている。町長と村長がそこに視察したら注目した。日の出町も気にし始めた。東庄町をチェックしてほしい。
会長	5その他について事務局からなにかあるか。
事務局	特になし。
会長	以上をもって終了とさせていただく。
	(閉会)